

II-18. 山の神遺跡

(1) 遺跡の概要 (I・第1表・第1図23)

山の神遺跡は、仙台東部道路仙台空港ICから南南西約0.9kmに所在し、縄文時代に形成されたとする第I浜堤列上か、またはすぐ南側を流れる志賀沢川が形成した自然堤防上に立地する。東西約360m、南北約180mの範囲に広がる。遺跡地名表には古墳時代前期の集落跡として登録されている。平成4年度に県営は場整備事業に伴う発掘調査が行われ、竪穴住居跡のほか、土塙や柱穴が発見され、古墳時代前期の集落が広がっていることが明らかになった(註)。今回の調査地は遺跡の西端付近に位置する。

(2) 調査に至る経緯と経過

今回の調査は、平成29年11月17日付で提出された個人住宅新築計画に伴う発掘届に対する宮城県通知(同年11月29日付、文第1993号)に基づいて、同年11月28・29日に実施した。予定地に2.5×3.8mのトレンチを設定し、バックホーにより掘削を行い、現地表下60~110cmで地山を確認した。V層上面で遺構検出を行い、図面作成と記録写真撮影の後、埋戻しを行い、2日間の調査を終えた。

(3) 調査成果

①基本層序 層厚20cm前後の黒褐色砂質シルトの表層(I層)、黒褐色砂質シルト(II層)、褐灰色砂質シルト(III層)、地山小ブロックを含む褐灰色砂質シルト(IV層)、にぶい黄橙色砂質シルトの地山(V層)の順に確認した。遺構はV層上面で検出した。

②発見した遺構と遺物

S D 1 溝跡

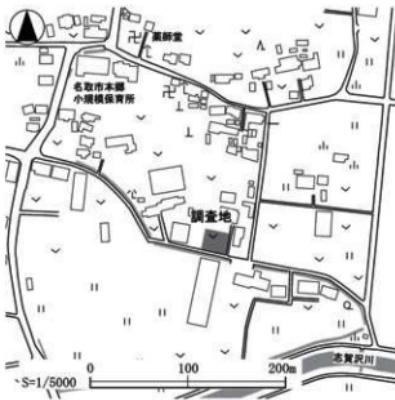
トレンチの北壁際で検出した東西溝跡で、東端がトレンチ外へと延びており、溝の南側部分のみ確認している。確認できた長さは2.4mで、上幅約0.3m、下幅約0.2m、深さ約10cmである。堆積土は地山ブロックをまばらに含む黒色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

S D 2 溝跡

トレンチの内壁際で検出した南北溝跡で南端がトレンチ外へと延びており、溝の東側部分のみ確認している。確認できた長さは1.7mである。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層であり自然堆積土である。遺物は出土していない。

S X 1 性格不明遺構

トレンチの東壁際で検出した不整形の落ち込みである。大部分はトレンチ外へ延びていることから全体の形状は不明である。重複関係はない。検出した規模は長軸1.5m、短軸0.3mである。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で、自然堆積土である。



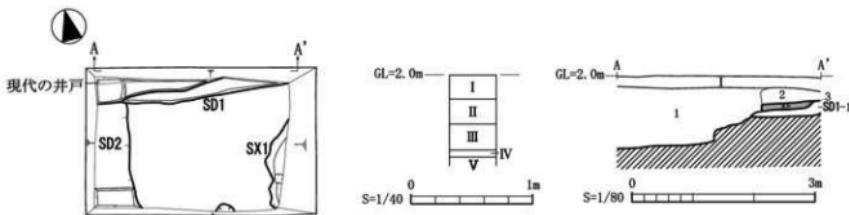
第1図 調査地位置図



S=1/500

0 10m

S=1/500



基本層

層位	層名	土色	土性	備考
I	表土	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	
II		黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	
III		褐色(10YR4/1)	砂質シルト	
IV		褐色(10YR4/1)	砂質シルト	地山小ブロックを含む
V	地山	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂質シルト	全体的に黒褐色土のくい込みが見られる

北壁断面

層位	遺構名	土色	土性	備考
1	現代の井戸	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	
2		灰黃褐色(10YR5/2)	砂質シルト	褐色土・炭化物・焦土を多く含む
3				木片
4	SD1	褐色(10YR2/1)	砂質シルト	地山ブロックをまばらに含む

SD2, SX1				
1	SD2	褐色(10YR4/1)	砂質シルト	自然堆積土
1	SX1	褐色(10YR4/1)	砂質シルト	自然堆積土

第3図 平面・層序模式・北壁断面図

(4)まとめ 今回の調査では、溝跡2条と性格不明造構1基が検出したが、造物は伴わず時期は不明である。

(註)宮城県教育委員会1993『下草古城ほか』宮城県文化財調査報告書第154集

写真図版



II-1. 幕野遺跡 全景 (南東から)



II-1. 幕野遺跡 西壁 (東から)



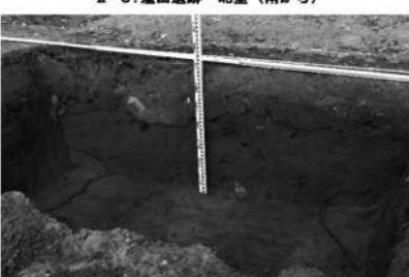
II-3. 塹田遺跡 全景 (北から)



II-3. 塹田遺跡 北壁 (南から)



II-4. 北宮神明遺跡 全景 (南西から)



II-4. 北宮神明遺跡 北壁 (南から)



II-5. 東内館遺跡 1T 全景 (南から)



II-5. 東内館遺跡 1T 北東壁 (南西から)